学校便り　NO.１０
入善町立黒東小学校
令和５年１月１２日

黒東っ子

＜合い言葉＞
さがして　じっくり
なかよく　にっこり
きたえて　ぐんぐん

学校は、わたしとみんなが育つところ

校長　内　山　真　之

毎朝、学校までの道を一人で歩いてくる「大きなランドセル」の姿。
その姿も、随分とたくましくなり、周囲を見ながら歩く余裕もでてきています。
成長してきた１，２年生でも、難儀する日があります。それが、雨の日です。
ランドセルを背負い、雨ガッパをその上から着て、雨の中を歩かなければならないのです。そして、そのゴールにこそ一番の難関があります。
学校の玄関で「雨カッパを自分で脱ぐこと」です。
濡れたカッパから腕を抜いて、ランドセルの上に乗っかる「カッパ」をおろさなくてはなりません。私も、子供の袖を引っ張ったり、ランドセルからカッパを下ろしたりと手伝うことがあります。大人が少し手伝うだけで、子供たちも簡単に苦難を終えられます。

ある雨の日。男の子が、「カッパ脱ぎ」に挑戦しています。手伝おうとしましたが、なんだか脱げそうな気配を本人も感じています。体を何度かくねらせると、雨ガッパが、ランドセルの上からするっと落ちました。初めての自力達成です。男の子の表情は、数秒前より誇らしげです。今日が、初めて自分で脱げた日となりました。手を出さなくてよかったとほっとしました。
私は、「褒めなくては」と、言葉を探しました。「すごいね」「がんばったね」かな。いや、褒めたほうがいいのでしょうか。カッパを自分で脱ぐのは、あたり前だと思っている子もいます。大きな学校なら、大人の眼は「子供と雨ガッパとの格闘」には届かず、１年生は、次々と自分で脱げるようになっていくことでしょう。私たちは、「脱げた」という結果よりも、「自分で脱ごうとした」行動を認めたいのです。
先ほどのカッパを脱いだ子には、「自分で、できたね」と、笑顔で声をかけました。
いつも考えるのは、「子供たちの成長につながるのは、どちらか？」ということです。
変化の激しい時代において、最優先される資質は、自分で考え、判断し、行動できることです。これを「自律」と呼んでいます。同時に、グローバル化と多様化が加速する世の中、他者を「尊重」できることも大切です。これを私たちは「リスペクト」と呼んでいます。
２年生の子供は、カッパのサイズが小さくなり、「カッパの袖を引っ張ってください」と、笑顔で言いにくることもあります。こんなコミュニケーション力も魅力的ですね。
私たちは、「子供の成長を支える」という役割を自覚し、手を貸してほしいときに手を貸し、望まないときにはじっと待ちたいと思っています。ほんの数秒の違いかもしれませんが、願う教育の目標も違いますし、子供の成長もまるで違うように感じているのです。
新しい１年のスタートを迎えました。教職員一同、「子供たちが社会で（幸せに）生きていく力を育む」ことができるよう、ご家庭、地域の皆様と共に伴走してまいりたいと思います。
本年もどうぞよろしくお願いします。

始業式

冬休みも終わり、学校に賑やかな子供たちの声が響いています。さあ、３学期が始まりました。

３学期始業式は、寒い日となりましたが、校長先生の話を静かに聞きながら、子供たち一人一人が、冬休み中に立てた自分の今年の目標を改めて思い起こしたのではないでしょうか。

各学年の代表者が新年の誓いを発表しました。子供たちの夢の実現を願い、子供たちを支援していきたいと思います。保護者の皆様、ご支援ご協力をお願いいたします。

書き初め会

新年恒例の書き初め会を始業式の後、２、３限に行いました。どの学年も、落ち着いた雰囲気の中、筆に思いを込め、真剣な面持ちで取り組んでいました。中には、慣れた手つきで自信に溢れた表情の子もいました。

１年「へいわ」

２年「あく手」

３年「明るい心」

４年「春の立山」

５年「雪の大地」

６年「強い信念」